

[第4号議案] その他

2021年度事業計画総括

放射線技術学は、医学、工学、物理学、数学などの多くの境界領域の学問と融合して発展を続けている。一方、第3次AI（人工知能）ブームの到来によりAIの活用による放射線技術学の発展が近い将来大いに期待できる。医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野での会員の連携による新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会となるよう会務運営に努めたい。

昨年度の総会学術大会は新型コロナウイルスの影響により、急遽、開催日程を約1か月ずらし大会初の試みとなるweb開催としたが、本会参加登録数は過去最高の5,273名と大盛況であった。今年度の総会学術大会もコロナ禍を想定した安全・安心な現地開催、閉会後には大会状況を録画したオンデマンド開催の2本立てを企画している。

国際的な学術連携としては、中華医学会影像技術学会（中国）、大韓放射線科学会（韓国）、タイ医学物理学会（タイ）、中華民國軍事放射学会（台湾）との学術交流を継続するとともに本会の更なる国際化に向けた広報活動を強化しつつ新たな連携・交流の相手の調査を進めて行く。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めている東南アジア教育支援事業については、引き続きミャンマーの大学教員の教育を目的に現地にてワークショップを開催する。

国内の関連団体との学術連携についても引き続き日本循環器学会ならびに日本放射線看護学会と連携・交流を進める。また、2020年10月15日のJSRT-JARTトップ会談の通り、日本診療放射線技師会とはそれぞれの法人で特色のある放射線技術学／臨床応用の分野での活動を明確に区別しつつ共通目的の領域では連携を強化する。会務事業品質を担保するための事業評価は、学会事業評価委員会にて自己評価を行い各事業にフィードバックしていく。教育プログラムとしてe-learningやwebセミナーを引き続き充実させ、すべての会員へ還元する。会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、2021年度事業計画の総括を述べる。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第77回総会学術大会を2021年4月15日（木）～18日（日）の4日間、西出裕子大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他で日本ラジオロジー協会（JRC）の運営により第80回日本医学放射線学会総会、第120回日本医学物理学学会学術大会ならびに2021国際医用画像総合展との併催で開催するほか、現地閉会後も引き続き、2021年4月28日正午（木）～6月3日正午（木）まで録画によるオンデマンド配信を行う。

また、第78回総会学術大会を白石順二大会長のもと、2022年4月の開催（パシフィコ横浜会議センター他）に向け準備を進める。

(2) 秋季学術大会の開催

第49回秋季学術大会を2021年10月15日（金）～17日（日）の3日間、川田秀道大会長のもと、熊本城ホール（熊本市）においてJRCの協賛を得て開催する。

(3) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催、専門部会ならびに地方支部が共催で15のセミナー・研修会を延17回開催する。

(4) 専門部会プログラムの開催

7つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学術大会にジョイントして専門部会プログラムを開催し、トレンドな技術情報をタイムリーに発信する。

(5) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また、地方支部と学術委員会、教育委員会、専門部会が協力してセミナー、研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

(6) 市民公開シンポジウム・市民公開講座等の開催

公益法人としての事業の一環であり、本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は2回(京都市、熊本市)開催する。

2. 刊行広報事業 ; 公2

1) 学会誌関連

学会誌第77巻第1号～第77巻第12号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号(第77巻11号)も組み込み、電子ジャーナルの発行も行う。剽窃チェックシステムを導入し論文査読を効率化しつつ学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。また、各専門部会と連携し最新の用語集を維持・公開する。

2) 英語論文誌関連

第14巻1号を2021年3月20日、第14巻2号を2021年6月20日、第14巻3号を2021年9月20日、第13巻4号を2021年12月20日に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する。第77回総会学術大会で、日本医学物理学会との合同企画ならびに土井賞、Most Citation Awardの表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書出版に向けた準備をする。また、放射線技術学教育関連図書の4シリーズおよび2スキルUPシリーズを発刊するとともに既出版物の販売促進を図る。叢書と教科書シリーズの電子化を推進する。

4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を1回～3回発行する。(電子ジャーナルを含み14回)

5) 部会誌の発行

各部会において部会誌を電子ジャーナルで2回発行する。

6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを、市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催、ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じて一般市民含めて学会内外に広報する。

3. 研究調査事業 ; 公3

学術研究班(20班)による学術研究を行う。動画コンテンツを推進してe-Learningの充実ならびに定着化を図る。また、学術大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに第77回総会学術大会ならびに第49回秋季学術大会において教育的講座を開催する。東南アジア教育支援事業については、ミャンマーの大学教員の教育を目的にワークショップを開催する。

4. 研究奨励事業 ; 公4

規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、北海道支部、東北支部、関東支部、東京支部、中部支部、中国・四国支部、九州支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

5. 連携交流事業 ; 公5

1) 国内

(1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関連省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等に情報提供する。関係省庁、日本画像医療システム工業会(JIRA)および関連学会と協力してIECと整合をもったJIS化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。医療情報の標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどについて関連団体と協議、策定および普及に努める。放射線防護に関しては医療被ばく研究情報ネッ

トワーク(J-RIME)に参画し、関連学会等と連携して診断参考レベルの検討、情報提供ならびに普及に努める。医療安全についても関連団体と連携して具体的に組み組んで行くとともに会員等への情報発信をおこなう。

- (2) JRC 理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (3) 関係省庁、教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて第 15 回 JART-JSRT 合同市民公開講座を 2021 年 8 月に仙台市にて開催する。

2) 海外

本学会と学問領域が近い学術団体と学術交流の締結を推進する。特に、中華医学会影像技術学会、大韓放射線科学会、タイ医学物理学会、中華民国医事放射学会との学術交流関係を継続する。また、双方の学会での研究発表を促進する。また、短期留学生の海外派遣、国際研究集会への海外派遣等の助成事業を継続して行う。